

369 冬季の採石場の有効活用

取組主体	法人番号	事業者の種類（業種）	実施地域
野田工業株式会社	8430001013149	その他事業者 （鉱業、採石業、砂利採取業）	北海道

1 取組の概要

民間事業者による排雪受け入れ

- 採石業を営む野田工業株式会社は、札幌市都心部と近接したエリアに、採石跡地や採石事業予定地を約 60 万㎡所有しており、冬季の閑散期を利用して市および民間が排雪する雪の受け入れを行っている。現在、年間を通じた採石計画を変更することで受入量は年間 35 万㎡となっている。

2 取組の特徴（特色、はじめたきっかけ、狙い、工夫した点、苦労した点）

採石場の一部を雪堆積場に

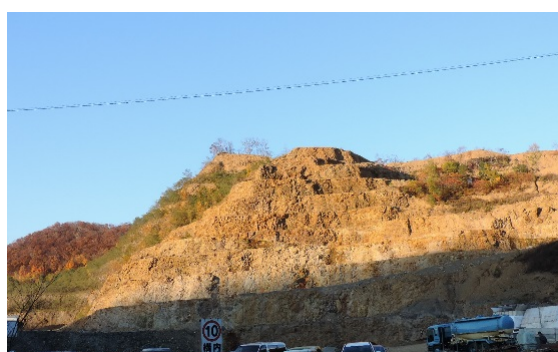
- 札幌市は、例年約 5 m の降雪量があり、民間事業者等も敷地内の積雪の運搬排雪が必要となる。
- 従来は、農地や公園、河川敷等も雪堆積場に利用していたが、現在は規制があり利用が容易ではない。このため、豪雪時等、市が提供する雪堆積場では収容できない場合には、都心部から 22km 離れた海岸まで雪をトラックで搬出する必要があり、民間事業者にとっては、この雪の運搬に掛かる費用が負担となっていた。

同社は、都心部から約 7km 離れた札幌市中央区盤渓で砕石を行っており、採石跡地や採石事業予定地を約 60 万㎡所有している。同社では、札幌市が行った民間雪堆積場の新規募集に対し、自社資源の有効活用を提案した。これにより、札幌市役所や民間が排雪する雪の受け入れをスタートさせることとなった。現在、受入量は年間 35 万㎡となっており、都心に近接した数少ない雪堆積場の一つとして活用されている。

- 同社では、雪堆積場を確保するため、年間の砕石区域を計画的に設定し、認可をとっている。降雪量が多くなることが予想される際には、毎年秋口には、雪を 100 万㎡の受入が出来るよう採石計画を行っている。



▲冬季の採石場と搬入路造成



▲夏期の採石場全景

3 取組の平時における利活用の状況

- 採石跡地や採石事業予定地は、砕石業の事業用地の一部であり、事業者による保有が必要とされる。一方で、直ちに本格的な活用が行われにくい土地でもある。本取組は、これらの土地の降雪期における有効活用事例と言える。



▲砕石場のうち緑部分が雪堆積場

4 取組の国土強靱化の推進への効果

- 札幌市内では、受入量を超えたため閉鎖せざるを得ない雪堆積場が現在でも散見される状況である。このため、民間の土地を活用した新たな雪堆積場の確保は、積雪による都市機能の麻痺等を事前に防ぎ、雪害に対して強い地域をつくることにつながっている。
- また従来、河川に雪を堆積していた際には、大量の融雪水によって河川が増水となっていた。加えて、凍結防止剤が融雪に伴い、ナトリウム等の防止剤に含まれている成分が河川や農地に流れこみ、融雪災害を引き起こしていた。このことから、本取組は、環境負荷や融雪災害リスクの低減にも貢献している。

5 防災・減災以外の効果

- 同社では、車の搬入路を確保するための費用がかかるため、以前は冬期出荷をしていなかった。雪堆積場となったことで、併せて冬季においても砕石を出荷することが可能となった。
- 雪堆積場を提供することにより、市内の除雪運搬がスムーズになり一般道の渋滞解消が進む。その効果として札幌市の経済活動の一助となることも想定される。

6 現状の課題・今後の展開など

- 同社では、採掘場は土地が固く、地盤が安定していることから、データセンターの誘致等を構想している。その際、冷熱として堆積している雪の雪氷熱利用ができないか検討している。

7 周囲の声

- 運搬排雪の時期になると道路が渋滞して困る。民間の雪を受け入れてくれるので安心だ。時間外も受け入れて欲しい。(雪運搬業者)